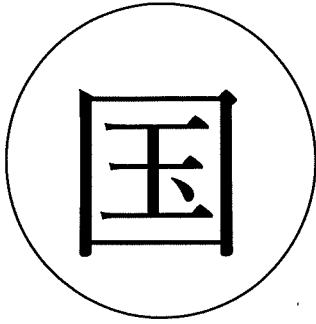


受験 番号					
----------	--	--	--	--	--



二〇二二年度 二月一日 入学試験 国語問題

国語の注意

答えはすべて解答用紙に書きなさい。

答えは解答らんからはみ出さないように書きなさい。

字数の指定がある場合は、句読点や記号なども一字に数えなさい。

【試験についての注意事項】

- 1 机の上に出してよいものは、次の三つです。それ以外のものはカバンにしまってください。
 - ① 受験票（机の左上におきます）
 - ② えんぴつ数本（シャープペンシルも可・色ペンやマーカー、定規の使用は不可）
 - ③ 消しゴム
 - 2 次のものを持ってきた場合は、カバンにしまってください。また、休けい時間中も使用してはいけません。
 - ① 腕時計・置き時計など（音が鳴らないようにしてください）
 - ② 携帯電話（電源を切ってください）
 - ③ 腕時計型の情報端末（Apple Watch など）
- ※ 許可なく携帯電話・スマートフォンや腕時計型の情報端末を使用した場合、不正行為とみなすことがあります。
- 3 机の中には、何も入れないでください。
 - 4 チャイムが鳴ったら、次のことを記入してから始めてください。
問題用紙 ↓ 受験番号
解答用紙 ↓ 受験番号と氏名
 - 5 問題についての質問は、いっさいできません。
 - 6 気分が悪くなったら、すぐに申し出てください。
 - 7 物を落としたら、自分でひろわず、手をあげてください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(本文省略) ※著作権法上の手続完了まで省略します。

(森島 いずみ『ずっと見つめていた』より)

問一 線①～④のかたかなを漢字に直しなさい。

問二 線(1)「ぼくは正直ビビった」とありますが、越はなぜ「ビビった」のですか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 生活環境も学校も生活も今までとは変わる山里へ引越すことに不安や迷いがあったから。

イ もともと不安や迷いがあった上にけわしい雪山が連なる場所のイメージが浮かんだから。

ウ 引越そうとしている場所が日本中さがしてもほかにはない不便な場所だと思ったから。

エ それまで聞いていた引越し先とは全く印象の違う山里であることに衝撃を受けたから。

問三 線(2)「ただ立っていた」とありますが、この様子は越のどのような気持ちを表していますか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア これから住む部屋を現実にも目の前にして自分の今後の生活や将来への不安がわいている。

イ 折角の日本間なのにたたみが予想に反して茶色く焼けていたためショックを受けている。

ウ 住もうとしている空き家の状態がひどく、こんな家に住めるよう

な気がしないでいる。

エ 新居の部屋を前にして今すぐやらなければならないことがなく手持ちぶさたでいる。

問四 (3)「山のすそ野を……ふりそそぐ」とありますが、この部分は、越が南アルプスに実際に来てどのように感じていることを示していますか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア この地で自分が本当にやっていけるか不安に思う気持ちを振り切るようにしている。

イ 予想していた通りの美しい景色を一つ一つ確認しながらこの引越しに満足している。

ウ 今まで住んでいた浦和との違いに驚き自然の余りの雄大さに負けそうになっている。

エ これまでの環境と異なる自然の雄大さと美しさに一つ一つ素直に感動している。

問五 線(4)「ログハウスのコテージは木のおいがして……」の部分はこの日の泊まりや夕食が越にとってどのような時であったことを感じさせますか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア ふだん食べたことのないアユや無農薬野菜などが特別に食べられるめったにない時。

イ 大好きなバーベキューが今までと場所を変えても同じようにできてほっとする時。

ウ ログハウスのコテージ、温泉、外での食事といったふだんと違っていたうれしい時。

エ 家族四人全員でテーブルを囲んで食事を久しぶりにすることができた感動の時。

問六

——線(5)「ぼくは黙ったまま小さくうなずいた」とありますが、この時の越の気持ちとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア とうさんのいつもと違うしんみりした空気の前で自分もしんみりした気分を装っている。

イ つぐみのことを思うとかわいそうで一緒にこの山里へ引っ越すことに納得している。

ウ 本当は反対もしたかったけれどかあさんととうさんの二人から説得されて我慢している。

エ とうさんの真剣な家族を思う言葉に何も言えず賛成する以外にはないと感じている。

問七

——線(6)「説明できない不安定な気持ちになって」とあります。「なぜか」と、自分でもその理由はわからない越ですが、なぜ越は不安定な気持ちになったと考えられますか。この前三行分の文章の「空」の比較と、後八行分の文章の「コンビニ」に対する越の感覚」を読み比べながら、その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 灰色がかかった空のうす暗さを思い出してせつかくの目の前の青い空がかすんでしまった。

イ 高く広がる澄んだ青い空と近くのコンビニとがあまりにもアンバランスなので戸惑った。

ウ コンビニに行っていた駄目な自分と澄んだ青空との大きな格差に愕然とした。

エ 空の高く広がる様子が、手に取れる所に全てがある慣れ親しんだ状況と違い不安になった。

問八

——線(7)「ほっとしてしまった」とありますが、ここに「しまった」と書かれていることから越のどのような内面を読み取れますか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア コンビニに入ってほっと安心している自分に無意識の罪悪感を少しだけ感じている。

イ コンビニに入ってその慣れ親しんだ空気に触れて心の底からの安心を感じている。

ウ コンビニに過去と今の自分をつなぐ手がかりを感じて気持ちの安定を取り戻している。

エ コンビニに思わずかけこんだ自分に対して強く非難する気持ちを持っている。

問九

——線(8)「つぐみは、あばれるミミズに……」の部分で越がつぐみの様子を見つと見ている時の越の気持ちの説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア こわがりのつぐみがこの地のミミズを全然こわがらないので拍子抜けしている。

イ ミミズのようなものを「かわいい」というつぐみのことが心配になっている。

ウ つぐみのミミズへの意外な対応を見てあたたかな気持ちになっている。

エ 早くもつぐみがこの地の生活に慣れている姿を見て後れをとったと思っている。

問十

——線(9)「つぐみは、浦和で暮らしていたときより生き生きして見えた」とありますが、この時の越の内面の説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア つぐみが前より生き生きとしている姿を見て越はまだ煮え切らないでいる自分を嫌になつてゐる。

イ こわがり屋のつぐみがミミズやアリをこわがっていない様子を見てその成長ぶりに感心している。

ウ 都会では見られなかつたつぐみの姿を見て、越はこの土地での生活を受け入れられるようになってゐる。

エ つぐみの表情に気持ちをあたためられて改めて自分とつぐみの兄妹愛をひしひしと感じている。

問十一

問題文全体を通して、越の、南アルプス市で新生活を始めることの受け止め方が次第に変化してきていることがわかります。どのように変化していますか。変化を左のように三段階に分けて、A B C にあてはまる内容をそれぞれ考えて答えなさい。

第一段階 山里で生活することに不安や迷いがあり、できれば引越したくない、と受け止めている。

第二段階 A という気持ちと B という気持ちの間で揺れている。

第三段階 C

次の文章は伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』の一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。設問の都合により本文の一部に改変があります。

(本文省略) ※著作権法上の手続完了まで省略します。

問一 線①～④のかたかなを漢字に直しなさい。

問二 線(1)「たとえば、足の裏の……時間を推測する」の内容を次のように表にすると、その場で知覚した情報を、すでに持っていた知識・経験による情報と合わせて解釈することによって世界をとらえていることがわかります。後の問いに答えなさい。

足 の 裏 の 感 触 【 触覚 】	足の裏の 感 触 【 触覚 】	足の裏の 感 触 【 触覚 】	足の裏の 感 触 【 触覚 】
A 使う 感 覚	B その場で 知 覚 し た 情 報	C すでに持っていた 知 識 ・ 経 験 に よ る 情 報	D とらえた 世 界
畳の目の向き	畳の目の向き	畳の目は壁に対してどのような向きなのか	部屋の壁がどちらに面しているのかを知る
部屋の外の音 の反響具合	部屋の外の音 の反響具合	1	カーテンが開いているかどうかを判断する
耳【 聴覚 】	耳【 聴覚 】	耳【 聴覚 】	耳【 聴覚 】
部屋の外から聞こえてくる車の交通量	部屋の外から聞こえてくる車の交通量	その場所での交通量は時間帯によってどのように違うのか	およその時間を推測する

1 1 にあてはまる内容を考えて答えなさい。

2 本文中の木下路徳さんの大岡山でのエピソードを右の表にあてはめ、表のB・C・Dにあたる内容をそれぞれ答えなさい。

問三 線(2)「俯瞰的」の本文中での意味の説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 目をつぶって頭のなかで空想する時のように、現実とは異なる想像を自由に広げられること。

イ 地面に寝転んで空を見上げた時のように、気苦労や迷いを忘れり
ラックスできること。

ウ 集中して一点を見つめた時のように、ふだん気づかない細かい様
子や変化が見えるようになること。

エ 高い所から広く見渡した時のように、一つの見方にとらわれず総
合的に考えられること。

問四

——線(3)「見える人では持ち得ないような空間が、頭の中に作り出され
ました」とありますが、なぜそのような空間が作り出されるのですか。
「想像」ということばをつかって六十字以内で説明しなさい。

問五

(4) に入ることはとして最も適切なものを次の中から選び、記号
で答えなさい。

ア 疲れたから休みたくて壁を探す

イ そこに壁があるから寄りかかってしまう

ウ まわりがみんな休んでいるから休みたくなる

エ すわる場所がないから壁に寄りかかろうとする

問六

——線(5)「都市においては無数の道が縦横無尽に引かれています」とあ
りますが、その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答
えなさい。

ア 都市には規則正しい大通りの間に数えきれない細い道が張りめぐ
らされている。

イ 都市では小ささまざまの道路が複雑に入り乱れて、まるで迷宮の
ように人を迷わせる。

ウ 都市には人から自由な意志を奪う魔力のようなものがあり、一度
とりにになるとだれも逃げられない。

エ 人の欲望を生み出し行動を誘導する多種多様な刺激が無限に仕掛

けられるのが都市というものだ。

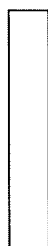
問七

——線(6)「私たちは日々、軽い記憶喪失に見舞われています」とありま
すが、それはどのようなことを指していますか。説明しなさい。

問八

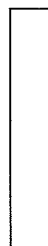
次のA・Bはこの問題文が載っている本の同じページ上で対比されてい
る挿絵で、ともに大岡山の様子を表しています。それぞれの絵が何を表
現したものなのか、対比がよくわかるように [] にあてはまること
ばを答えなさい。

A



大岡山

B



大岡山

(挿絵省略)

受 験 番 号

氏 名

問一	①	やす
問二	④	
問三		
問四		
問五		
問六		
問七		
問八		
問九		
問十		
問十一	A	
	B	
	C	

問一	①	
問二	1	
問三	2	B
	2	C
	2	D
	④	り
	②	
	③	
問四		
問五		
問六		
問七		
問八	A	
	B	

大岡山 大岡山